

令和2年3月21日

「復興の火」が宮城県仙台市で展示されました

前日、宮城県東松島市の航空自衛隊「松島基地」に到着し、石巻市の石巻南浜津波復興祈念公園で「復興の火」として展示された聖火は、3月21日、仙台市の仙台駅東口で展示されました。

東北の玄関口である仙台駅が所在する宮城野区は、東日本大震災で、市内で最も強い震度6強の揺れに見舞われ、駅構内も損壊し利用不能になりましたが、関係各位の懸命の努力により、45日後には東北新幹線の運転が再開に至るなど、復旧・復興に大きく寄与されたところです。また、オリンピックでサッカー競技が開催される予定の「宮城スタジアム」(利府町)に観戦に訪れるお客さまの拠点にもなります。

式典には、菅家復興副大臣が出席しました。

聖火皿には、宮城県の村井知事と仙台市の郡市長により点火され、約52,000人が観覧に訪れました。

(左上) 祝辞を述べる菅家復興副大臣(左中) 宮城県知事、仙台市長による聖火皿への点火(左下) 式典参列者フォトセッション(右上) 聖火皿にともされた復興の火(右下) 一般観覧の様子

